

古代のくらしと祈りに学ぶ

こまつの歴史

発掘調査を行うと、建物跡や土器のかけらなど、人々が生活していた様々な痕跡が見つかります。それらを整理・研究することで、当時の人々の暮らしぶりを具体的に知ることができます。

今回は、古代の遺跡や出土品を通して、当時の暮らしや祈りの実像に迫ります。

問い合わせ

埋蔵文化財センター ☎47・5713

古代には「律令」という法律に基づいた国づくりが進められました。各地は国・郡・里（後に郷）という行政単位に分けられており、小松市域には現在の地名にも通じる「軽海」や「野身」「八田」などの郷があったと考えられています。発掘調査では、集落跡が梯川流域や月津台地で多く確認されています。

また、古代の文献には各地で飢饉や疫病、重い税の負担に苦しむ人々の様子が記録され、遺跡からは平穩を祈る儀式やまじないの道具が見つかっています。疫病などの災いをはらう願いが込められた土馬や陶馬、悪霊を寄せ付けないために謹慎することを

示す呪符木簡、病の原因となる鬼をはらう意味と考えられる「鬼食」と書かれた墨書土器などが出土しています。

出土品やそこに記された文字から見えてくる、日々の平穩な暮らしや家族の健康を願う古代の人々の姿は、現代に生きる私たちと変わらないのかもしれないかもしれません。

▼墨書土器「鬼食」
（松梨遺跡・平安時代）
石川県埋蔵文化財センター所蔵



◀呪符木簡（漆町遺跡・平安時代）



▲陶馬（茶臼山祭祀遺跡・飛鳥時代）

さらに

詳しく知りたい人へお薦めの催し

企画展

ふたつの重要文化財が語る
原始こまつのくらしと祈り

とき 10月5日(土)～

12月8日(日)

ところ 埋蔵文化財センター

Hello!

企画展

古代こまつのくらしと祈り
～律令制下のムラの日常～

とき 10月12日(土)～

12月15日(日)

ところ 加賀国府ものがたり館

特別講演会

加賀と都と地下の文字

いにしへの文字は、私たちに何を教えてくれるのでしょうか。市内遺跡で発掘された文字資料を中心に、加賀国の社会や都と加賀国の関係、古代人の暮らしぶりを探ります。



11月17日(日) 13時30分～15時30分

ところ 芦城センター

講師 馬場 基(奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長)

定員 100人(先着順)

参加費 無料

申し込み 10月12日(土) から電話、FAXまたはメールで氏名・住所・電話番号を連絡

申込先 埋蔵文化財センター ☎47・5713 FAX 47・5715

✉ maibun@city.komatsu.lg.jp